

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化			
主な取組	那覇空港自動車道の整備	実施計画 記載頁	172	
対応する 主な課題	観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	那覇空港と沖縄自動車道を連結し、高速交通サービスを提供するため、豊見城東道路及び小禄道路を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		豊見城IC～ 南風原南IC 部分供用	全線供用				国
	豊見城東道路の整備						
	小禄道路の整備					H32年度ま での全線供 用を目指す	
担当部課	土木建築部道路街路課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算(当初)	決算見込	活動内容	備考
国直轄	国直轄	国直轄	国は、豊見城東道路、小禄道路の整備を行った。 県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 157頁 4-(1)-ウ 329頁
活動指標名			計画値	実績値
区間供用			-	-
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	国における取り組み完了後の効果として、本島中南部及び北部圏域における観光、産業の振興や様々な地域振興プロジェクトに資することが期待される。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
国直轄	国直轄	国は、豊見城東道路、小禄道路の整備を行う。 県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 157頁 4-(1)-ウ 329頁

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗していることから、県としては、前年度同様、事業促進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	23.5% (24年度)	向上	0.7%	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
混雑時旅行速度	—	28.3km/h (17年度)	27.3km/h (22年度)	→	35.1km/h (22年度)
状況説明	交通渋滞状況について、観光客満足度については、若干向上しているものの、参考データの混雑時旅行速度からすると、全国と比較して低い水準が続いている。ただし、取り組みは、計画通り進捗しており、観光客の移動の円滑化につながっている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

中南部圏域の幹線道路では、混雑時の旅行速度が15km/hを下回る区間が多数みられるなど、大都市圏並の渋滞状況となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案(Action)

県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備	
施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化		
主な取組	沖縄西海岸道路の整備	実施計画 記載頁	172
対応する 主な課題	観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点(那覇空港、那覇港)、高規格幹線道路(沖縄自動車道、那覇空港自動車道)を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、区間延長約50kmの地域高規格道路を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	読谷道路部分 暫定供用		浦添北道路 暫定供用	豊見城道路 完成供用	糸満道路 完成供用	→	国
	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、豊見城道路、糸満道路等の整備						
担当部課	土木建築部道路街路課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算(当初+補正)	決算見込	活動内容	備考
国直轄	国直轄	国直轄	国は、読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、豊見城道路、糸満道路等の整備を行った。 県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 158頁 4-(1)-ウ 328頁
活動指標名			計画値	実績値
区間供用			読谷道路部分暫定供用	読谷道路部分暫定供用
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	国における取り組み完了後の効果として、 ○那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港と西海岸地域の各拠点が連結されることによる、国道58号、国道331号などにおける交通混雑の緩和や地域の活性化する ○那覇空港から読谷村までの所要時間が約7割減少すること等が見込まれている。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
国直轄	国直轄	国は、読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、豊見城道路、糸満道路等の整備を行う。 県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 158頁 4-(1)-ウ 329頁

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗していることから、県としては、前年度同様、事業促進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	23.5% (24年度)	向上	0.7%	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
混雑時旅行速度	—	28.3km/h (17年度)	27.3km/h (22年度)	→	35.1km/h (22年度)
状況説明	交通渋滞状況について、観光客満足度については、若干向上しているものの、参考データの混雑時旅行速度からすると、全国と比較して低い水準が続いている。ただし、取り組みは、計画通り進捗しており、観光客の移動の円滑化につながっている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

中南部圏域の幹線道路では、混雑時の旅行速度が15km/hを下回る区間が多数みられるなど、大都市圏並の渋滞状況となっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案(Action)

県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化			
主な取組	ハシゴ道路ネットワークの構築	実施計画 記載頁	173	
対応する 主な課題	観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	南部東道路等の幹線道路の整備を推進し、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路網(ハシゴ道路ネットワーク)の構築を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	0区間 完了区間数	1区間完了	3区間完了	0区間	0区間	→	
	沖縄環状線、浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線B P、国道507号(津嘉山BP)、南部東道路等の整備						
担当部課	土木建築部道路街路課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
活力創出基盤整備総合交付金(国道・地方道)道路、地域連携推進事業費、活力創出基盤整備総合交付金(街路)	5,822,393 (2,018,704)	3,856,791 (2,018,704)	沖縄環状線、浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、国道507号(津嘉山BP)、南部東道路等の整備を行った。【内閣府計上、一括交付金(ハード)】	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 158頁 4-(1)-ウ 329頁
活動指標名			計画値	実績値
完了区間数			0区間	0区間
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	取り組み完了後の効果として、 ○道路のアンバランスな使われ方の解消 ○各地から広域交流拠点(那覇空港、那覇港)までのアクセス時間の短縮 ○那覇都市圏をはじめとした交通渋滞の緩和が期待できる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
地域連携推進事業費(地域高規格道路)、社会資本整備総合交付金(道路)、沖縄振興公共投資交付金(道路)、沖縄振興公共投資交付金(街路)	6,954,410 (1,965,603)	沖縄環状線、浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線B P、国道507号(津嘉山BP)、南部東道路等の整備を行う。【内閣府計上、一括交付金(ハード)】	再掲 1-(3)-ウ 39頁 3-(1)-ウ 158頁 4-(1)-ウ 329頁

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業推進を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	23.5% (24年度)	向上	0.7%	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
混雑時旅行速度	—	28.3km/h (17年度)	27.3km/h (22年度)	→	35.1km/h (22年度)
状況説明	交通渋滞状況について、観光客満足度については、若干向上しているものの、参考データの混雑時旅行速度からすると、全国と比較して低い水準が続いている。ただし、取り組みは、計画通り進捗しており、観光客の移動の円滑化につながっている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・中南部圏域の幹線道路では、混雑時の旅行速度が15km/hを下回る区間が多数みられるなど、大都市圏並の渋滞状況となっている。
・道路事業を含む公共事業を推進するための財源が限られている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、効率的な取組を行い、ハシゴ道路ネットワークの早期構築を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、交通需要マネジメントなどのソフト施策との連携や、主要渋滞箇所の優先的な整備など、効果的な取組を行う。
・沖縄地方渋滞対策協議会において特定された主要渋滞箇所については、渋滞原因の分析や対策案の検討等、渋滞緩和に向けた取り組みを行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備	
施策	①交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化		
主な取組	沖縄都市モノレール延長整備事業	実施計画 記載頁	173
対応する 主な課題	観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄都市モノレール延長整備事業は、首里駅から沖縄自動車道(西原入口)までのモノレールの延長と新たなインターチェンジを整備することで高速バスとの連携を図り、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成・拡大させ、本島中北部のアクセス性向上に寄与する。また、利便性の向上は自動車から公共交通機関への転換を促し、那覇都市圏の渋滞緩和に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	3.73%	14.02%	40.3%	63.13%	85.92%	31年度延長 区間開業	
	モノレール延長整備事業進捗率 ・延長区間:那覇市首里汀良町(首里駅)~浦添市前田 延長距離:4.1km(4駅) ・終着駅と沖縄自動車道とを接続するためICを整備					県市 事業者	
担当部課	土木建築部 都市計画・モノレール課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
沖縄都市モノレール道整備事業費(道路)他3事業	2,251,747 (446,422)	651,029 (442,845)	モノレールインフラ部について実施設計及び土質調査等を実施した。また、関連道路等については実施設計及び用地取得に着手した。【一括交付金(ハード)】	再掲 1-(3)-ア 34頁 1-(3)-ウ 39頁 1-(7)-ウ 74頁 3-(2)-ウ 173頁
活動指標名			計画値	実績値
モノレール延長整備事業進捗率			3.73%	1.64%
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input checked="" type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	○県民及び観光客の利便性向上(モノレール乗客数) 35,551人/日(22年度)⇒50,166人/日(31年度) ○交通渋滞緩和による経済的損失の是正(31年度) ○温室効果ガス排出の抑制(31年度) ○公共交通利用環境改善による誰もが快適な移動手段を確保でき、人に優しいまちづくりが実現できる。(31年度) ○特許申請に向けた資料取り纏め等に時間を要し、事業着手が遅れたため、事業進捗が遅れている。(H24.1.26特許取得)			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
沖縄都市モノレール道整備事業費(道路)他3事業	8,564,693 (1,596,917)	モノレールインフラ部については実施設計を進めるとともにインフラ下部工の工事に着手する。また関連道路等については用地取得を推進するとともに、一部工事に着手する。 新たなインターチェンジについては、連結許可申請と実施設計に取り組む。【一括交付金(ハード)】	-

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

特許申請に向けた資料取り纏め等に時間を要し、事業着手が遅れたが、平成31年度開業に向け、事業推進体制を強化する。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	22.8% (21年度)	向上	0	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
モノレールの乗客数	35,551人/ 日 (22年度)	36,689人/ 日 (23年度)	39,093人/ 日 (24年度)	↗	—

状況説明 モノレール延長整備事業の成果指標に対する直接的な寄与はない。
(参考)
那覇空港駅～首里駅までの区間は、観光客の増加やモノレール沿線での都市開発及び施設整備により、モノレール乗客数が増加している。今後、延長整備による公共交通ネットワークの拡大に伴い移動利便性が向上するとともに、沿線まちづくりの促進等が期待されている。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

○平成31年春開業のためには、H24～H26までの3年間でモノレールインフラ整備に係る全ての用地を取得しなければならない。
○延長区間第4駅周辺は、モノレール延長整備事業の他、インターチェンジ及びアクセス道路整備事業、パークアンドライド駐車場整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、事業が輻輳している。
○各事業間で進捗状況に差があることから、工程計画(法手続含む)等、留意する必要がある。
○東日本大震災や原子力発電所の事故を契機に、災害に強く、環境負荷の少ない施設整備が求められている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

○用地取得については、取得に係る体制の強化や新たな事業スキームの検討する必要がある。
○延長区間第4駅周辺の配置計画等については、各事業と充分連携を図り、有機的に接続した利便性の高い施設とする必要がある。
○各事業間の整備計画(配置計画等)や工程計画(法手続や工程上のクリティカルパス等)の情報共有。
○再生可能エネルギーや電力等エネルギーを効率的に使用する省エネ設備等の導入を検討する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

○用地取得体制を強化するとともに、予算の平準化を考慮した計画的な用地取得を図る。
○沖縄自動車道と結節する第4駅周辺の各整備事業を円滑に実施するため、県、地元市町、関係団体及び事業者との間で、調整会議等を開催する。
○車両や電気設備等については、モノレール運行会社の協力のもと、エネルギー利用効率の高い設備等を推進する。また、自然エネルギーの活用についても検討を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備	
施策	①交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化		
主な取組	パークアンドライド駐車場の整備(第4駅周辺等)	実施計画 記載頁	173
対応する 主な課題	観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させるため、モノレール駅交通広場にパークアンドライド駐車場を整備する。 沖縄都市モノレール延長整備事業と連携し、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成することで、公共交通機関の利用促進や渋滞緩和に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	922台 パークアンドライド駐車・駐輪台数					1,922台 (31年度)	県市
	・延長区間第4駅周辺での大規模駐車場整備(1000台規模) ・モノレール駅交通広場での駐輪場の整備						
担当部課	土木建築部 都市計画・モノレール課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
都市計画策定費	9,846	0	第4駅パークアンドライド駐車場基本計画検討業務を実施中(H24繰越)。【県単等】	再掲 1-(3)-ア 34頁 1-(3)-ウ 40頁 1-(7)-ウ 75頁 3-(1)-ウ 158頁
活動指標名			計画値	実績値
パークアンドライド駐車・駐輪台数			922台(既整備分)	922台(既整備分)
—			—	—
推進状況	取組の効果			
<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	○延長区間第4駅周辺での大規模パークアンドライド駐車場整備完了による駐車・駐輪台数 922台⇒1922台(31年度) ○県民及び観光客の利便性向上(モノレール乗客数) 35,551人/日(22年度)⇒50,166人/日(31年度) ○温室効果ガス排出の抑制(31年度)			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
活力創出基盤整備総合交付金事業(都市モノレール)	10,000	25年度は、26年度事業化に向け、第4駅パークアンドライド駐車場基本設計業務を実施する。【一括交付金(ハード)】	—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

パークアンドライド駐車場の計画検討に時間を要しているが、モノレールの平成31年度開業に併せて供用開始できるよう事業推進体制を強化する。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	22.8% (21年度)	向上	0	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
モノレールの乗客数	35,551人/ 日 (22年度)	36,689人/ 日 (23年度)	39,093人/ 日 (24年度)	↗	—
状況説明	第4駅周辺パークアンドライド駐車場が完了し、供用開始するまでは、成果指標に対して直接的に寄与しない。 (参考) 既存駅におけるパークアンドライド駐車場・駐輪場は、常時利用されている状況にあることから、公共交通への結節機能向上による自動車から公共交通への転換に寄与している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

○大規模パークアンドライド駐車場整備を予定している延長区間第4駅周辺は、モノレール延長整備事業の他、モノレールと高速道路結節のためのインターチェンジ及びアクセス道路整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、事業が輻輳している。
 ○各事業間で進捗状況に差があることから、工程計画(法手続含む)等、留意する必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

○延長区間第4駅周辺の配置計画等については、各事業と充分連携を図り、有機的に接続した利便性の高い施設とする必要がある。
 ○各事業間の整備計画(配置計画等)や工程計画(法手続や工程上のクリティカルパス等)の情報共有。

4 取組の改善案(Action)

○沖縄自動車道と結節する第4駅周辺の各整備事業を円滑に実施するため、県、地元市町、関係団体及び事業者との間で、調整会議等を開催する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化			
主な取組	観光周遊自転車ネットワークの形成	実施計画 記載頁	173	
対応する 主な課題	中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	自転車道利用環境の整備による観光周遊自転車ネットワークを形成し、これまでのレンタカー観光から、自転車の利用促進も含めた多様な交通環境への転換を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29~	実施主体
	0.8km 自転車道の 整備延長	9.4km	2.0km	2.0km	2.0km	→	県
	玉城那覇自転車道の整備	地区指定・自転車道の整備					
担当部課	土木建築部道路管理課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
活力創出基盤整備総合交付金事業費(管理)	309,956 (88,982)	171,808 (88,982)	玉城那覇自転車道の整備を実施した。【一括交付金(ハード)】	—
活動指標名			計画値	実績値
自転車道の整備延長			0.8km	0.8km
取組の効果				
推進状況 <input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	供用後は、自転車道利用環境の整備による観光周遊自転車ネットワークを形成し、これまでのレンタカー観光から自転車への転換等、多様な交通手段による観光が可能となる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考
道路防災保全事業	356,399 (138,121)	引き続き、玉城那覇自転車道の整備を推進【一括交付金(ハード)】	—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通り進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)	22.8% (21年度)	—	向上	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
状況説明	玉城那覇自転車道の完成供用に向け、計画通り整備を推進している。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

南城市道との並走区間において、用地買収等、南城市の事業への協力が不可欠な状況である。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

南城市と緊密に連携・協力し、事業の進捗を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

並走区間において、南城市と調整を進め、連携・協力を図りながら事業を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備		
施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化			
主な取組	歩行空間の整備	実施計画 記載頁	173	
対応する 主な課題	中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	高齢者や障がい者など誰もが安心して快適に暮らせる生活環境を確保し、移動の円滑化や歩いて楽しい街づくりを推進するため、歩道未整備箇所や狭隘箇所、通学路等において歩道の設置を行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1.5km 歩道整備延長				→	→	県
	歩道の設置						
担当部課	土木建築部道路管理課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成24年度実績				
事業区分	予算	決算見込	活動内容	備考
公共交通 安全事業統合 補助	2,421,398 (801,065)	1,677,481 (798,187)	国道449号や県道37号線等、歩道未整備箇所や狭隘箇所、通学路等における歩道設置【一括交付金(ハード)】	再掲 1-(7)-1 72頁
活動指標名			計画値	実績値
歩道整備延長			1.5km	1.6km
-			-	-
推進状況	取組の効果			
<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> やや遅れ <input type="checkbox"/> 大幅遅れ <input type="checkbox"/> 未着手	歩道設置により、誰もが安全に安心して暮らせる環境づくりにつながる。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成25年度計画			
事業区分	当初予算	活動内容	備考

様式1(主な取組)

公共交通安全事業	1,881,440 (732,340)	引き続き国道449号や県道37号線等、歩道未整備箇所や狭隘箇所、通学路等における歩道設置【一括交付金(ハード)】	—
----------	------------------------	----------------------------------------------------------	---

(3) これまでの改善案の反映状況

計画通りに進捗しており、前年度同様、事業進捗を図る。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
県管理道路の歩道必要箇所設置率 (通学路等)	調査中 (24年)	—	増加	—	—
参考データ	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	平成24年度から通学路の安全点検等を実施しており、その結果もふまえ、平成25年度には歩道必要箇所を選定する予定である。
------	-------------------------------------------------------------

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

依然として狭隘で入り組んだ道路が多く、歩道の整備により通学路等の安全確保を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

歩道の整備には沿道地権者の協力が必要であるため、事業の必要性を説明し、理解を得ることが必要である。

4 取組の改善案(Action)

歩道の役割について住民の理解を得ることが重要であることから、関係市町村とも協力し、住民に対する十分な説明や情報提供を行う。
